

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

International Joint Research Institute of
Shimane University, [JAPAN](#) & Ningxia University, [CHINA](#)



目 的

島根大学と寧夏大学は、長年にわたる教育・研究分野における協力により、多くの研究成果を収め、国際協力の経験を蓄積し、良好な関係を築いてきています。一層の協力と交流を展開していくために、両大学での協議を経て、JICA の円借款により、2004 年に島根大学・寧夏大学国際共同研究所(以下、研究所)を設置しました。この研究所設置の背景には、寧夏大学が「西部発展研究センター」を設置し、西部大開発、特に寧夏南部山区の研究実績を積み重ね、現場との関係でも顕著な成果を上げていること、島根大学が日本国内の食料・農業技術に関する研究や中山間地域など条件不利地域の地域発展の研究においても、数多くの実績をもつことが挙げられます。



島根大学 小林祥泰学長

また、島根大学は、2003 年 10 月 1 日に、農村医学研究に実績を持つ島根医科大学と統合し、同自治区内の寧夏医科大学と協定を締結し、医学分野を含めた学際研究の幅を拡げ、国際的に貢献してきました。

本研究所は、中国西部内陸部に設置された日中の大学による共同研究所として唯一のもので、独立した建物を有し、日本人研究員が駐在しています。この立地条件と研究環境を生かして、本研究所では、都市と農村との地域格差の是正、中山間地域(条件不利地域)の社会・経済の活性化、環境と調和する開発方式、農村住民の健康の増進などを主要なテーマとして学際的な共同研究を行ってきました。今後も研究成果を当該地域の現場に普及し、さらに東アジアをはじめとする世界に発信するとともに、人材の育成と教育交流、研究交流を積極的に推進し、中国西部における学術ネットワークを構築し、国内外の研究者に開かれた中国・西部地域研究の拠点づくりを目指します。

研究所組織

管理運営体制

| | 日本側 | 中国側 |
|-----|---|---|
| 顧問 | ・保母 武彦 (島根大学名誉教授) | ・陳 育寧 (前寧夏大学長) |
| 所長 | ・伊藤 勝久 (島根大学生物資源科学部教授) | ・王 鋒 (寧夏大学教授) |
| 副所長 | ・一戸 俊義 (島根大学生物資源科学部教授) ・関 耕平 (島根大学法文学部准教授) | ・李 紅 ・劉 曄 (寧夏大学副研究館員) |
| 職員 | ・田中 奈緒美 研究員 ・郭 迎麗 助手 ※職員は現地駐在 | ・蔵 志勇(寧夏大学助理研究員) ・李 楊(行政担当) ・徐 曉美(資料管理担当) |



日本側所長
伊藤勝久 教授



中国側所長
王 鋒 教授

研究所運営組織

●対応委員会

委員長：島根大学・寧夏大学国際共同研究所長

委員：島根大学長

島根大学副学長

島根大学法文学部 教員代表者

島根大学教育学部 教員代表者

島根大学医学部 教員代表者

島根大学総合理工学部 教員代表者

島根大学生物資源科学部 教員代表者

島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問

島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長

島根大学国際交流センター教員

島根大学学術国際部長



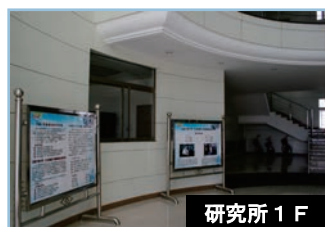
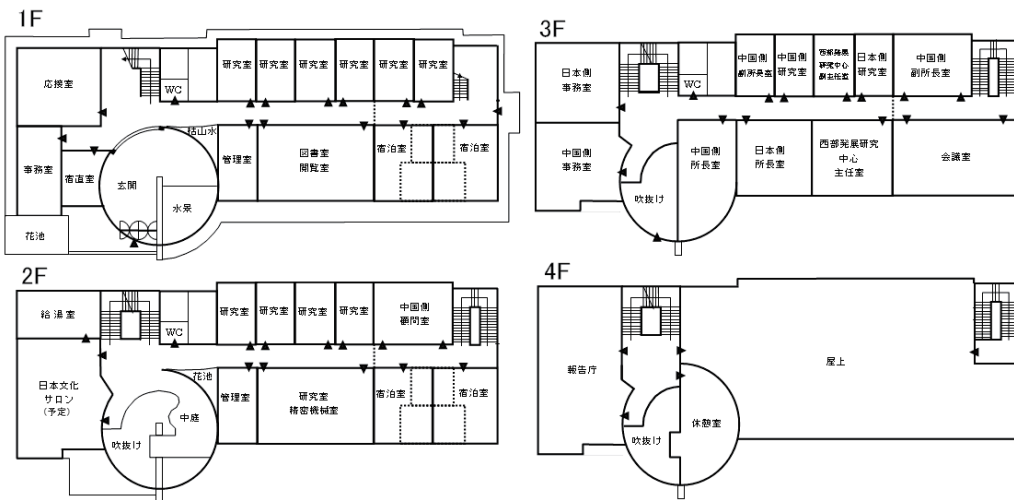
業務内容

- 研究事業
- 学術交流・国際フォーラムの開催
- 図書資料の蓄積と提供
- 中国の地方政府への政策提言
- 島根県、松江市等の国際交流事業への協力

施設紹介

4階建て、建築面積 2,794 m²

所長室、研究室、研修室、講義室、資料室、事務室、食堂、宿泊施設など完備



研究所のあゆみ

- 1987年 島根大学農学部(現生物資源科学部)の教員が、中国寧夏回族自治区南部山区にて学術調査を実施
- 1993年 10月 島根県・寧夏回族自治区 友好県区協定(10月6日)
- 1997年 8月 島根大学・寧夏大学 交流協定締結(8月18日)
- 2004年 3月 国際共同研究所設置の覚書きを交わし、開所
(国際協力銀行(JBIC)(現 JICA)による中国政府に対する円借款事業の一環)
- 9月 松江市・銀川市(寧夏回族自治区政府所在地)友好都市提携協定(9月24日)
- 2005年 9月 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 研究棟完成、落成記念式典開催
- 2005年 12月 落成記念式典・国際シンポジウム開催(12月10日~11日)
於:松江市くにびきメッセ
- 国際シンポジウム「東アジアにおける社会発展と環境のあり方を考える」**
- 第1部 社会発展は農村に何をもたらしたか
第2部 農村地域における発展と環境
第3部 農村発展の優良事例に学ぶ
第4部 格差問題をいかに解決すべきか
- ◆報告件数:
・記念講演 1件
『2006年の世界潮流と日本』 寺島実郎(財団法人日本総合研究所理事長)
・個別報告 20件(日本13件、中国4件、韓国3件)
- 
- 2006年 12月 第1回寧夏ワークショップ開催(12月9日~20日)於:寧夏大学
「寧夏経済社会の持続可能な発展」
- 
- 今日、生態環境の保全・建設と農村社会の発展を有機的に結合させる新たな農村建設が求められており、中国寧夏南部山区においても当該地に適した環境保全型農村発展モデルを構築する重要性が高まっていることを念頭において、日中双方の研究発表を踏まえて意見交換を行い、今後の共同研究の発展に資することを目的に行われました。
- 報告件数: 9件(日本側4件、中国側5件)
- 2007年 10月 『20年学術交流—中国寧夏大学と日本島根大学の共同・交流』出版発表会及び記念座談会開催
- 島根大学・寧夏大学交流20周年記念国際シンポジウム開催
(10月13日~15日)於:寧夏大学
- 学術交流20周年記念国際シンポジウム**
- 寧夏社会科学院、寧夏大学の研究者との20年に及ぶ共同研究・学術交流を記念して中国・寧夏回族自治区・寧夏大学で開催されました。
- 
- ◆報告件数:
・基調講演 2件
『寧夏南部山区の生態建設持続可能な発展』 保母武彦(研究所日本側顧問)
『寧夏における特色優性農業の発展の特徴と活路について』 陳育寧(研究所中国側顧問)
・個別報告 29件(日本側11件、中国側18件)

2008年 4月

島根大学・寧夏大学交流20周年記念式典及び記念シンポジウム開催

島根大学・寧夏大学交流20周年記念式典(4月21日)

～『20年の学術交往』日本語版出版を記念して～



島根大学と寧夏大学の交流が20周年を迎え、それを記念する『島根・寧夏学術交流の20年』及び『中国農村の貧困克服と環境再生』が出版されました。

これは前年度に出版された『20年学術交流—中国寧夏大学と日本島根大学の共同・交流』の日本語版で、2冊構成となっています。

交流20周年記念シンポジウム(4月22日)於:島根大学

「交流の歴史と将来への展望」

第1部 記念講演

『中国民族の概況と民族政策の要点』 陳 育寧(研究所中国側顧問)

第2部 パネルディスカッション

2008年 6月

内蒙古師範大学歴史文化学院(内モンゴル自治区フフホト市)と西部学術ネットワークの形成に関する協定を締結

2008年 12月

日本学術振興会「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」による2008年度日中国際学術セミナーの開催(12月5日～7日)於:島根大学

「条件不利地域における地域振興と生活改善

～農林牧業の技術革新・新たな農村運営・地域医療と健康の疫学研究～」

農村開発の現場の実地共同調査と農村医療の共同研究結果を踏まえて、総合的に農村問題をとらえ学術的な討論を行いました。分野の異なる研究者間の討論により、農村開発、農村医学の領分にとって新たな発想や課題が見出されました。

◆報告件数:

・主題報告 1件

『条件不利地域における地域振興と生活改善の方向』 伊藤勝久(研究所日本側所長)

・個別報告 17件(日本側11件、中国側6件)



2009年 5月

西南大学歴史文化学院(重慶市)と西部学術ネットワークの形成に関する協定を締結

2009年 11月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所、内蒙古師範大学歴史文化学院、西南大学歴史文化学院の三者により、『西部学術ネットワークの共同創設に関する覚書』締結

日本学術振興会「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」による2009年度日中国際学術セミナー開催(11月9日～10日)於:寧夏大学

「条件不利地域における地域振興・持続可能な発展」

テーマに基づき、多方面からの報告・討論が行われました。まず主題報告として、農村政策と地域医療の2側面から現状と課題・あるべき方向が指示された後、20本の報告が2日間にわたって行われ、最後に全体を踏まえて総括報告と討論が実施されました。島根大学、寧夏大学、寧夏医科大学以外からの報告もあり、活発な討論が行われました。

◆報告件数:

・主題報告 2件

『中国西部条件不利地域農村における地域振興と持続可能な発展を理性的に認識する』 高桂英(研究所中国側所長(当時))

『条件不利地域における地域振興と持続可能な発展—地域医療の観点から—』

塩飽邦憲(島根大学医学部)

・個別報告 19件(日本側9件、中国側10件)



2010年 6月 蘭州大学歴史文化学院、蘭州大学西北少数民族研究中心（甘肅省蘭州市）と西部學術ネットワーク形成に関する協定を締結

2010年 9月 日本學術振興會「アジア・アフリカ學術基盤形成事業」による2010年度日中国際學術セミナー開催（9月30日～10月2日）於：島根県民會館

「日中条件不利地域における持続可能な発展」

テーマに基づき、日中研究者による研究成果を発表し、条件不利地域の農業・農村開発に関して、農村・農林畜業生産・資源管理の社会・経済及び技術に関する課題とその解決方法、生活習慣病・公衆衛生の課題とその解決方法について学際的な討論が行われました。

また3年間のプログラムの成果の締めくくりとして、諸課題を整理し、日中をはじめ東アジアの地勢的・社会的特性を考慮して、条件不利地域の農村振興と住民福祉の向上のための政策的示唆について論議が行われました。

◆報告件数：

・基調講演 3件

『条件不利地域における持続可能な食料生産体系』 一戸俊義（研究所日本側副所長）

『条件不利地域の城鎮化の趨勢に関する研究』 高桂英（研究所中国側所長（当時））

『寧夏地域の人口、健康状況及び医療保険の状況についての紹介』 宋輝（寧夏医科大学）

・個別報告 31件（日本側20件、中国側11件）



2011年 12月 中国寧夏大学・日本島根大学2011年度国際學術セミナー開催（12月17日～18日）

「地方經濟の振興と持続可能な発展」

毎年交互に行っている日中国際セミナーの第9回。2011年度は寧夏大学の主催で開催され、特別講演（島根大学山本学長（当時）、基調報告（島根大学伊藤教授、寧夏大学胡教授）、研究報告及び最後に総括が行われました。また全体会なども含めると100名以上の参加があり、研究報告も多岐にわたりました。

◆報告件数：

・特別講演 1件

・主題報告 2件

『地方の発展とは何か—經濟發展論の限界—』 伊藤勝久（研究所日本側所長）

『島根大学図書館所蔵の中国古典書籍と日本にある寧夏地方文献の現状についての

調査研究—寧夏大学図書館所蔵の日本古典書籍の研究も兼ねて—』 胡玉冰（寧夏大学）

・個別報告 29件（日本側 10件、中国側 19件）



2012年 9月 日本への留学に興味を持つ学生に対する支援を目的とし、研究所棟にて日本語専門以外の学生に対する日本語基礎コースを開講予定。

2012年 秋頃 研究所棟 2階多目的室に、日本に関する情報の発信及び日本に興味がある人々の交流の場を目指した日本語サロンを開設予定。

研究事業

2003~2005年度

- **日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(B)**
「地域間経済格差是正と環境改善の最適地域マネジメント」
代表：保母 武彦

2005年度

- **特定研究寧夏プロジェクト**
寧夏回族自治区における農林業・保健・循環型産業に関する現地調査研究
中林吉幸：「寧夏回族自治区南部山区の3地域における定点観測農村調査結果について」
塩飽邦憲・北島桂子：「北東アジアの開発に伴う健康問題」
関 耕平：「中国・寧夏回族自治区における廃棄物政策の展望—「処理」政策か？「管理」政策か？—」
小林伸雄・伴 琢也：「寧夏回族自治区の園芸植物資源とその利用方法について」

2006年度

- **特定研究寧夏プロジェクト**
「農村から都市への人口流出のための都市基盤の整備調査研究」（井口隆史・保母武彦・王欣）
「第1回寧夏ワークショップ：寧夏経済社会の持続可能な発展」
- **島根大学受託JBIC中水調査事業**
「銀川・石嘴山両市の再生水利用に係る調査報告書」（保母武彦・井口隆史）

2007~2009年度・2010年度~

- **研究プロジェクト(特定研究寧夏プロジェクト)**
井口隆史：「中国寧夏南部山区農村の持続可能な発展に関する研究」
一戸俊義：「寧夏中部乾燥帯におけるメソウ飼養法の改善」
伊藤勝久：「寧夏南部山区における農民間のソーシャルキャピタルと持続可能な農村建設の研究」
神田嘉文：「中国寧夏南部山区農村の経済発展方式に関する研究」
小林伸雄：「寧夏回族自治区における園芸作物の流通動向と在来品種の保護に関する研究」
関 耕平：「寧夏回族自治区における静脈経済システムの現状と課題
—自動車リサイクルと廃棄物処理を中心に—」
谷口憲治：「条件不利地域における地域資源利用型地域経営と農村金融の役割」

2008~2010年度

- **日本学術振興会 アジア・アフリカ学術基盤形成事業**
「中国西部農村地域の環境改善と持続可能な発展への方策」
コーディネータ：伊藤 勝久

【概要】日本の過疎山村に関する研究蓄積のある島根大学と、中国の代表的な低開発地域である黄土高原の農村を対象とした研究成果を上げてきた寧夏大学・寧夏医科大学とで研究者交流を進め、相互にセミナーを開催し、学術的共同研究の成果を発表し、共通認識を作ります。

とくに黄土高原の環境改善と適応・活用のための技術・社会経済にかかわる研究ならびに農村医学・公衆衛生学にかかわる研究を共同で行い、同時に今後の担い手となる若手研究者を育成し、これによって農村の持続的な地域振興・環境改善・生活改善を目指すものです。



2009~2011年度

- **日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(B)**
「中国西北部における砂漠化防止と社会経済構造転換の必要性に関する総合的研究」
代表：保母 武彦

刊行物

『東アジアにおける農村の発展と環境』

東アジア「条件不利」地域研究会 2006年3月

東アジア
「条件不利」
地域研究会

日本学術振興会科学研究費補助金研究

「地域間格差是正と環境改善の最適地域マネジメント」

* 代表者 保母武彦、2003-05年

島根大学萌芽研究プロジェクト

「東アジア条件不利地域における農村克服と環境対策」

* 代表者 藤原 勉、2005年

島根大学特定研究部門

「寧夏プロジェクト」

* 代表者 廣島清志、2005年



※現在、寧夏研究会として継続しています。

『島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報』



第1号 2006年度

第2号 2007年度

第3号 2008-2009年度合併版

第4号 2010年度

第1号は研究所の前史を含み、研究所に関する協定・規則・組織予算などと2006年の事業・研究成果を紹介しています。

2007年度～2010年度については事業報告・研究成果を紹介しています。

『20年 学術交往—中国寧夏大学和日本島根大学的合作交流』

陳 育寧・保母武彦 編著 (2007年10月出版)

島根大学と寧夏大学との学術交流20周年の記念出版として刊行されました。20年間の学術交流に係わった関係者の論文・講演・回顧録を掲載しています。



『島根・寧夏学術交流の20年』 (回顧篇)

『中国農村の貧困克服と環境再生』 (論文・講演篇)



保母武彦・陳 育寧 編著 (2008年4月出版)

島根大学と寧夏大学との学術交流20周年の記念出版として刊行されました。

前年度に刊行された『20年 学術交往—中国寧夏大学和日本島根大学的合作交流』の日本語版で、論文・講演篇と回顧篇の2冊で構成されています。

宿泊のご案内

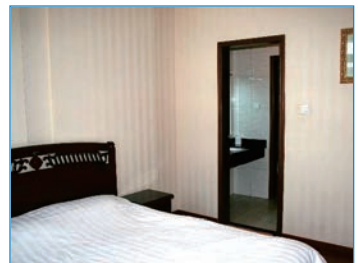
研究所には現在、宿泊可能な部屋が4部屋あります。

寝室+リビングという構造で、シャワー・洗面所・テレビ・机等基本的な設備が整っています。

長期宿泊も承っておりますので、寧夏にお越しの際はぜひご利用下さい。

| | 1～7泊 | 8泊～14泊 | 15泊以上 | 備考 |
|------|--------|--------|--------|------|
| 料金 | 200元/泊 | 150元/泊 | 100元/泊 | 朝食つき |
| 学生料金 | 100元/泊 | | | 朝食つき |

*ご利用については、国際共同研究所または島根大学国際交流課までお申込下さい。



位置



交通アクセス

北京市から银川市まで

空路: 北京空港→银川空港 (約 1 時間半)

鉄道: 北京西駅→银川駅 (約 20 時間)

银川空港から国際共同研究所まで

車(タクシー): 約 1 時間

シャトルバス: 旧市内(老城)まで 20 分

+ 市バス: 旧市内(老城)から 50 分

银川駅から国際共同研究所まで

バス: 約 10 分





島根大学 学術国際部 国際交流課

〒690-8504

島根県松江市西川津町1060

Tel: 0852-32-9735 Fax: 0852-32-6481

E-mail: kks-kouryu@jn.shimane-u.ac.jp

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

750021

中国 寧夏回族自治区銀川市西夏区賀蘭山西路489号

Tel & Fax: 日本国内から +86(国番号)-951-206-1818

島根大学・寧夏大学国際共同研究所ホームページ

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>